

# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	生協くまもと新熊本東支所(仮称)	階数	地上1F		
建設地	熊本県上益城郡益城町大字古閑峠107-16	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	90人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年1月 予定	評価の実施日	2015年7月6日		
敷地面積	4,951 m <sup>2</sup>	作成者	洋建築計画事務所 中田		
建築面積	2,084 m <sup>2</sup>	確認日	2015年7月10日		
延床面積	2,019 m <sup>2</sup>	確認者	洋建築計画事務所 浅田		

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 Q

環境負荷 L

**BEE = 1.0**

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

**81%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		<b>81</b>
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	<b>86.7</b>
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	<b>68.7</b>
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	<b>90.0</b>
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	<b>72.7</b>

■ 熊本県重点評価基準

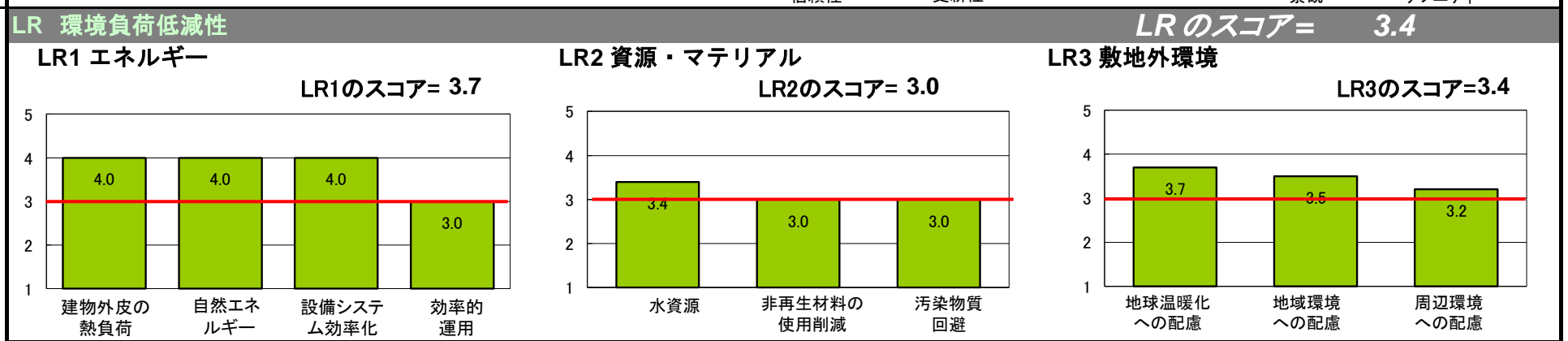
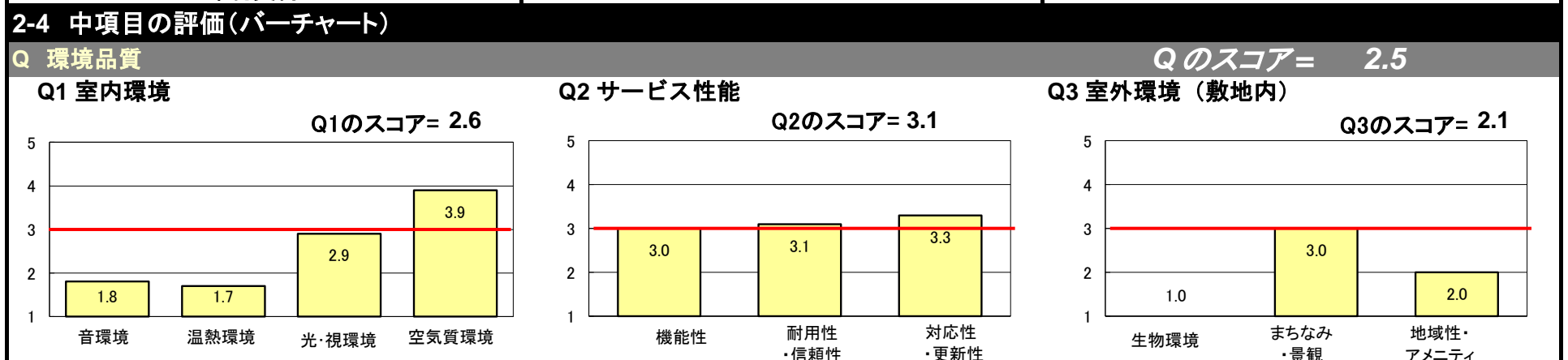
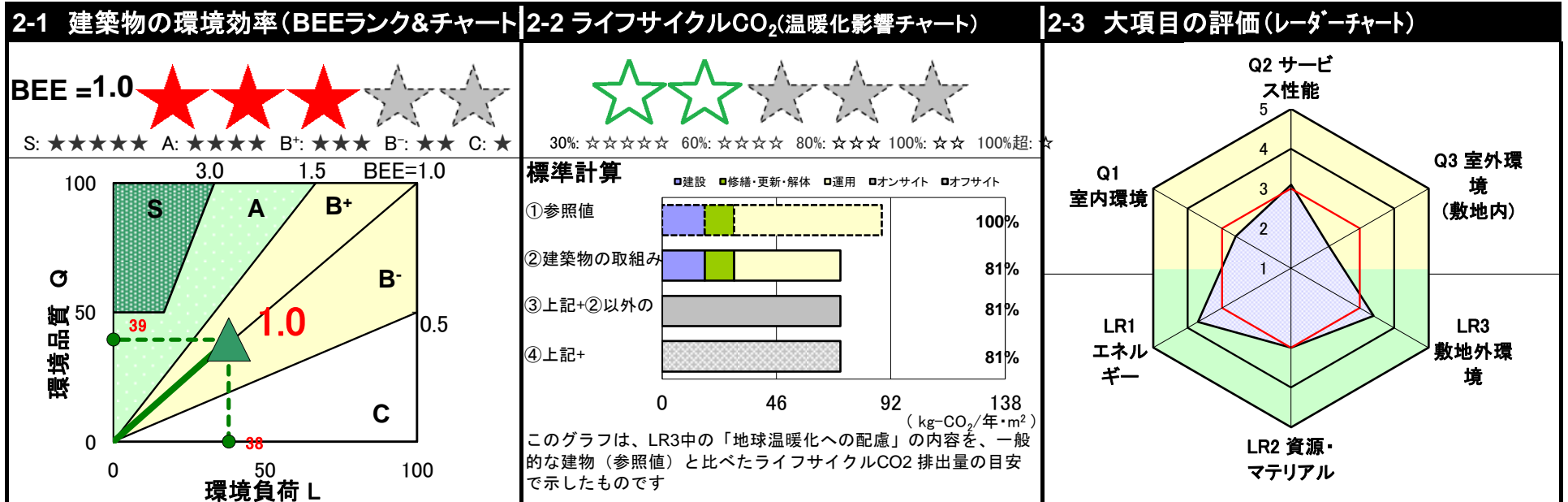
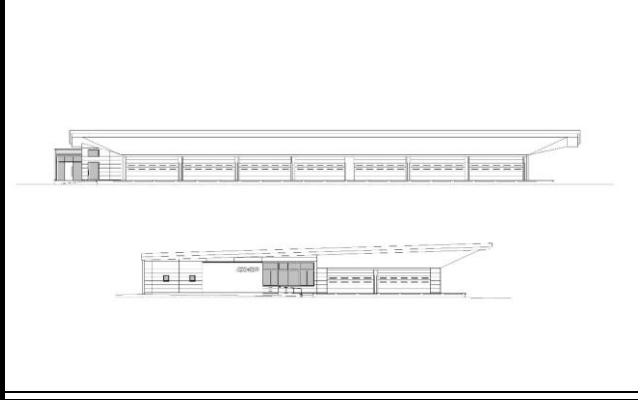
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	☆☆☆☆☆
80点以上100点未満	☆☆☆☆
60点以上80点未満	☆☆☆☆
40点以上60点未満	☆☆☆☆
40点未満	☆☆☆☆

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	生協くまもと新熊本東支所(仮称)	階数	地上1F
建設地	熊本県上益城郡益城町大字古閑峠107-16	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	90人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年1月 予定	評価の実施日	2015年7月6日
敷地面積	4,951 m <sup>2</sup>	作成者	洋建築計画事務所 中田
建築面積	2,084 m <sup>2</sup>	確認日	2015年7月10日
延床面積	2,019 m <sup>2</sup>	確認者	洋建築計画事務所 浅田



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
**生協くまもと新熊本東支所(仮称)**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.33</b>		-			<b>2.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>1.8</b>	0.15	-	-			<b>1.8</b>
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		<b>1.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.7</b>	0.35	-	-			<b>1.7</b>
2.1 室温制御		<b>2.5</b>	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 外皮性能		1.0	0.25	3.0	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.9</b>	0.25	-	-			<b>2.9</b>
3.1 昼光利用		<b>2.4</b>	0.30	-	-			
1 昼光率		2.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度	500lx	<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25	-	-			<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	規制対象外及びF☆☆☆☆材料を使用する。	4.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>4.3</b>	0.30	-	-			
1 換気量	建築基準法の1.4倍以上の換気量	5.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮	取り入れ口は汚染源のない方位および排気口から6m離れて設置。	5.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.0</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		1.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		4.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	天井高2.7m	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース	事務所面積の21%の休憩室。自販機設置。	5.0	0.33	-	-			
3 内装計画		3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上を採用	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30	-	-			<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管B、排水管B、冷媒管Cを使用。	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブル、メタルケーブル、携帯電話。FAX設置。	4.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高4.3m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.13	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		1.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.37</b>	-	-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.66	<b>4.0</b>	0.06	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		トップライトの採用	4.0	0.12	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 0.72 住宅(専有部) 0.83	<b>4.0</b>	0.59	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI <sub>m</sub> =0.72	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.24	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水型水栓、便器の採用。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>		使用比率29.9%	4.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		OAフロアの使用。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			3.0	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO <sub>2</sub> =79%	<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器の不使用。	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪場の確保。	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たす。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

- ・鉄骨造平屋建ての配送センターの計画である。
- ・事務所スペースと、冷凍冷蔵庫を含む荷捌きスペース（倉庫）で構成されている。
- ・工業団地である周辺環境からはみ出しすぎない計画としている。

### Q1 室内環境

- ・標準的な室内環境を整えるよう努めている。
- ・規制対象外及びF☆☆☆☆の材料を中心に使用している。

### Q2 サービス性能

- ・中心的執務空間である事務室にはOAフロアを採用し、将来的なレイアウトの変更にも対応している。
- ・余裕のある天井高さとし、圧迫感を受けすぎないような空間としている。

### Q3 室外環境（敷地内）

- ・景観の形成に配慮し、道路沿いに緑地を設けている。

### LR1 エネルギー

- ・LED照明器具を積極的に採用し、エネルギーの高効率化を図っている。

### LR2 資源・マテリアル

- ・節水型の水栓や便器を採用している。
- ・再利用できるユニット部材としてOAフロアを使用している。

### LR3 敷地外環境

- ・適切に駐車場、駐輪場を確保している。

### その他

- ・柱状改良による地盤改良を行うことで、排出土量を抑えている。

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 生協くまもと新熊本東支所(仮称)

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	81
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.7	0.40	34.68
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.09			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.09			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.04			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				68.7	0.20	13.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				90	0.20	18.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	4.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72.7	0.20	14.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数